

宮城



「短歌」とわたし

宮城県屋外広告美術協同組合 理事・啓発事業委員長 今泉 信吾
(株式会社美研)

令和になり三年目、丑年の新年を迎えました。

牛は勤勉によく働く姿が誠実さを象徴し、また縁起の良い身近な動物で、神の使いとして祀られているそうです。世の中は今年もコロナウイルス問題の話題が絶えません。丑年にあやかり、縁起の良い年になるよう期待したいです。

さて、私の楽しみのひとつに短歌があります。短歌を始める切っ掛けとなったのは、ある病院の院長でもある先輩から「短歌の会の会員を募集しているから君もやってみないか」という突然の誘いでした。曖昧にして返事もしないまま一週間が過ぎた時、自分宛に短歌の月刊誌と申込書の入った封書が届きました。先輩に返すわけもいかず、そのまま、一ヶ月に二首提出するというルールの下で短歌づくりを始めることにしました。

これまで短歌に接する機会もなく興味があったわけでもなく、全く別世界のものだったので知識もありませんでした。そうこうしてうちに、月末の提出日がせまってきました。テーマは何にしようか、五・七・五・七・七にうまく収まらない、語呂が悪い、どんな言葉がいいのか。言葉の表現の難しさを痛感しました。「やるっきゃない!」と初めて

詠んだ短歌は平成二十五年三月十日の…

「夜明け来た

起床合図のスズメ鳴き

エサ待つ君へ米のご褒美」

「待ちわびて

帰宅を歓迎シッポ振る

愛犬ナナに疲れ忘れる」

恥ずかしい限りですがこの二首を初投稿しました。

歌を詠む時、どんな些細なことも目の前にある全ての事がテーマになります。たとえば、春夏秋冬の四季には、その中の二十四の気という季節、七十二の候という季節があります。こまやかな季節の移ろい、季節それぞれの風物詩や折々の行事や祭り、お天気や野に咲く花、旬の食べ物など、季節を感じるテーマだけでも身近なところになくさんのネタがあります。

他にも、仕事の事、人との関わり、成長や老い、時には事故や災害、そして家族のことなど日常生活の中にたくさんあることに気づきます。

ふと触れたことや感じたことを短い文字に表す時、そのことについてもっと深く見つめることが出来、美しさは更に美しく優しさはもっと優しく感じます。これからも短歌のある生活を通して感性を刺激していこうと思っています。



〈夏の二首〉

「梅雨明けて

太陽さんさん光射す

緑のカーテン葉陰オアシス」

「まだ夏の

盛りと言うに虫たちの

秋の調べよ季節が走る」

〈秋の三首〉

「柿の実の

枝もたわわにオレンジの

雪洞に見ゆページェントに見ゆ」

「庭先に

BGMかやコオロギの

声心地よく秋への序曲」

「秋深し

放射冷却朝冷えに

妻のコーヒー湯気の香ひとしお」

※事務局便りは10ページに掲載しています。



MARUWA SHOKAI

スリーエムジャパン株式会社 特約加工販売店

株式会社 丸和商会

〒321-0921 栃木県宇都宮市瑞穂 3-5-14

TEL: 028-656-3611

東京・高崎・郡山・仙台・秋田・青森

http://www.maruwashokai.co.jp

～先端新規ビジネスへ その開発思想は果てしなく～

東北藤光株式会社

www.t-tohkoh.co.jp

●各種看板資材取扱店●

〒983-0025

宮城県仙台市宮城野区福田町南1丁目2-46

TEL: 022-254-0611

FAX: 022-254-0608